



南太秦だより

令和2年度後期学校評価結果

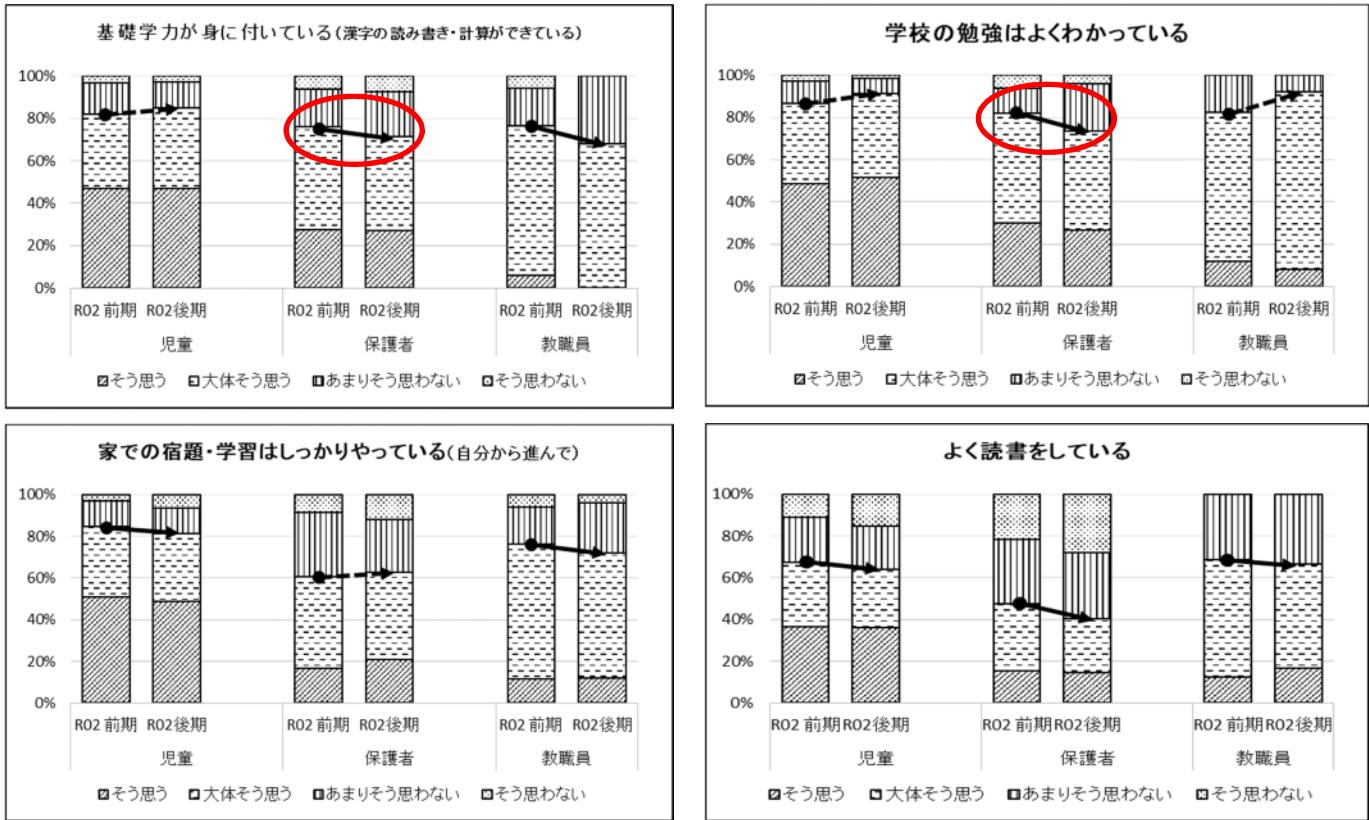
令和2年度後期学校評価結果 臨時号
京都市立南太秦小学校
校長 上田 清乃

「南太秦小学校の教育に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。アンケート項目を『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3つにまとめ、それぞれについて前期と後期の結果との比較を行い、今年度の成果と課題などをまとめています。

【アンケート回答率】児童：99% 保護者：93% 教職員：100%

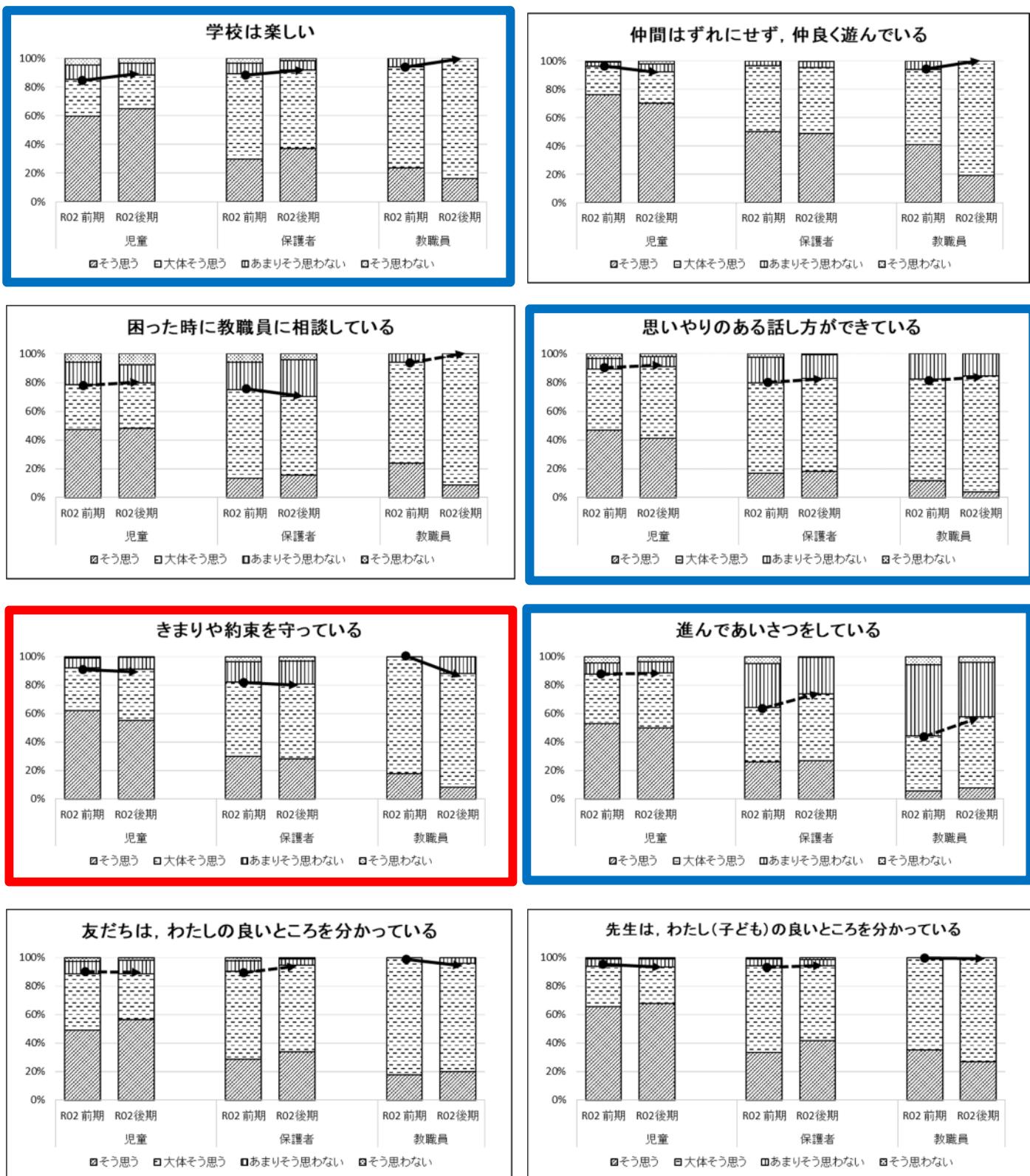
確かな学力

学ぶ意欲をもち、進んで表現する子



【考察】学びの定着のために

「基礎学力が身に付いている」「学校の勉強はよくわかっている」の項目については、児童・保護者・教職員の評価の変化はありますが、「そう思う」「大体そう思う」の割合は、概ね70～80%程度と良好な状態です。しかし、どちらの項目も保護者の評価が下がっている点が気になるところです。特に「学校の勉強はよくわかっている」については、児童と教職員の評価が上がっているのに対して、保護者の評価は10%近く下がっています。以前から課題の一つであった「家の宿題・学習はしっかりとやっている」の保護者評価が少しずつ改善されてきていることと併せて考えると、各家庭でも丁寧に子どもたちの学習の様子を見ていたいしていることの表れかも知れません。いずれにしても、子どもたちは学校の授業では一定理解できている（理解できたと思っている）ものの、家庭で宿題等に取り組む際には、学習したことを忘れてしまっているということが考えられます。これまで、ペアやグループで考えや理解したことを伝え合う活動や学習の振り返りを交流するなどして学習内容の理解を深めてきましたが、今年度は3密を避けるという観点からそのような活動が十分にできなかったこと事実です。今後、新型コロナウィルス感染症との闘いは長丁場を覚悟する必要があると言われており、学校現場も「WITH コロナ」社会に対応していく必要があります。2月末、GIGA スクール構想で配備された一人一台のタブレット端末等を活用しながら、新しい生活様式における「主体的・対話的で深い学び」が実現できる授業づくりをしていきたいと思います。学校での学びが定着するように、引き続き家庭学習のご支援よろしくお願ひいたします。



★ 前回課題として挙げていた「思いやりのある話し方ができている」「進んであいさつをしている」については、改善が見られました。

★ 「学校は楽しい」についても、3者とも改善が見られました。

【考察】子どもの学びを生かした学校づくりへ

児童評価において、いずれの項目も「そう思う」「大体そう思う」の割合が80～90%以上という結果を見ると、この1年間で子どもたちも「新しい生活様式」に慣れてきたのではないかと思います。1月中旬、2回目の緊急事態宣言で、学校生活でできることができることが制限された際も、子どもたちはスムースに対応することができました。ただ、運動場老朽化対策工事と重なったこともあります、思い切り体を動かして遊ぶことができない期間があったことは大きなストレスになっていたようです。このことが、児童・教職員の「きまりや約束を守っている」の評価が下がった原因だと考えられます。(雨の日に廊下を走るなど)

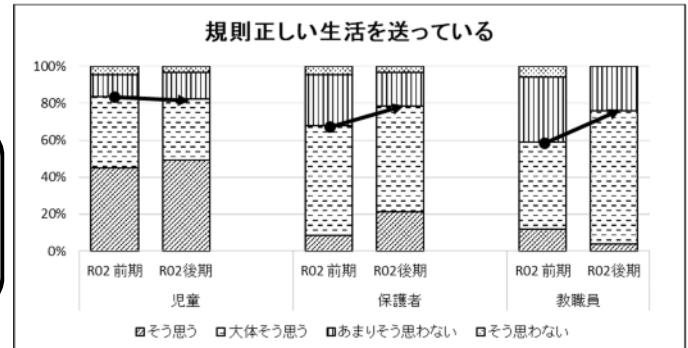
一方で、これまで課題だった「進んでいきさつをしている」の児童・保護者・教職員の3者の評価が改善し、大変うれしく思います。改善の大きな要因として、5年生、6年生の「総合的な学習の時間」の取り組みが挙げられます。5年生は『ボランティアキッズ』、6年生は『みなみうず No1 委員会』として、学校をよりよくしていくために自分たちに何ができるのかを考え、挨拶運動などに取り組みました。「総合的な学習の時間」は、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の流れを繰り返し、スパイラル状に学習を積み上げていきます。「いさつを返してもらえるとうれしくなったし、これからもいさつを心がけていきたい」「何かちょっとした工夫(笑顔で挨拶)をするだけで挨拶が増えてうれしかったです。」(5年生「総合的な学習の時間」活動の振り返りより抜粋)このように自分たちの取組が成果として表れてくることで、次の取組への意欲へつながっていきます。今後も子どもたちの意欲、実践を大切した教育活動を行い、よりよい学校づくりにつなげていきたいと思います。

健やかな体

自分の体を大切にする子



児童の大きな変化はありませんが、保護者、教職員の「そう思う」「大体そう思う」の総計が改善しました。

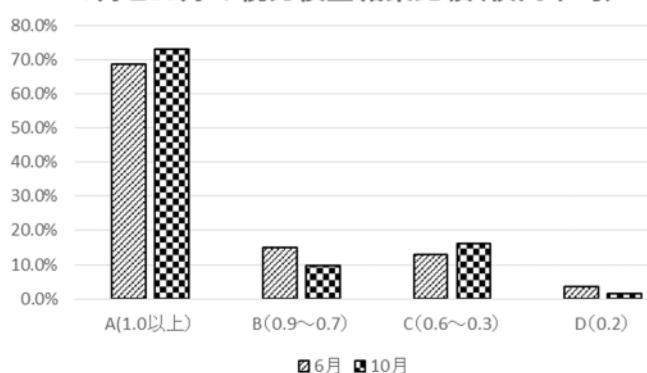


【考察】規則正しい睡眠時間を

前期評価では、保護者の「そう思う」・教職員の「そう思う」「大体そう思う」の総計が大きく下がっていましたが、今回は改善されました。教職員の評価も前年度並みに回復していることから、子どもたちの生活リズムが元に戻ってきていると思われます。ご協力ありがとうございました。

『ほけんだより』でもお伝えしていますが、子どもたちの生活リズムの改善とあわせて、視力検査の結果、肥満傾向等も改善されています。

6月と10月の視力検査結果比較(校内平均)



目を休める時間も大切に

ある調査で「眼軸」の長さや角膜の形などを測定したところ、視力検査では分からぬ「近視」と判定された児童が、視力の低下がみられた児童の2倍以上いたことが分かっています。(超近視時代 コロナ禍でさらに/NHK特設サイト)また、「眼軸」は伸びてしまうと、元に戻らないそうです。「長時間のゲーム、タブレットの使用を控える」「20分間継続して近くを見たあとは、遠くを20秒間眺める」など、目を休める約束づくりも大切にしたいものです。

自由記述（一部抜粋）

- 意欲的に家庭学習と読書をしている姿をみて、学校教育の有難さと先生方に感謝しております。
- 高学年になると子どもたちの関係性もいろいろあると思います。事が小さい間に親と連携し楽しい学校生活であってほしいです。
- このコロナ禍の中、様々な工夫をして行事を行っていただき、ありがとうございます。
- これまでの生活と変わり、本人の自覚のないまま自粛せざるを得ない今、ようやく自分から宿題をやろうとか、お風呂に入ろうとか簡単なことですが、前向きになってくれたと思います。学校での活動も自覚をもってすんでやれないと自分から話してくれます。
- コロナ禍で学校での学習が変わり、子どもの柔軟な思考でもついていくのが大変なようです。閉塞感からの苛立ちもあり、特に宿題への意欲を失っています。
- 路上での遊び方が気になります。自転車をジャマな所にとめている。17時をこえても大声でしゃべっているなど。
- マスク生活が長く続き、また会話が感染の一因ということもあるのか、出会っても挨拶しない子が増えた気がします。
- 大人の目を気にして行動を自制することも少なくなってきたているように思います。「わかっているだろう」と思わず、親が目をかけていく必要があるなど感じています。

今回いただいたご意見・ご感想については、今後の教育活動の参考にさせていただきます。また、何かお気づきの点等ございましたら、隨時学校までご相談ください。

学校運営協議会理事の皆様より（一部抜粋）

- 家庭での読書をする時間が減っている様ですが、休みの日には親が子に読み聞かせなどをして、本に親しむ時間を増やすのも良いかと思います。
- コロナ禍で就業の中身が変わった保護者もおられるでしょうが、我が子の学習についてしっかりと観察し、現状の学習内容を理解する必要があるかと思います。
- 児童全員にタブレット端末の支給があり、次年度から本格的に様々な学習に活用されると思います。先生方も益々授業の中身が広がり大変でしょうが、積極的な活用が児童の成長に繋がっていくと思います。頑張ってください。
- 学校は楽しいと感じている児童が多くとても良いことだと思います。困った時に先生や友達に相談できる環境があることも結果的に学校は楽しいと感じることに繋がっていると思います。
- コロナ禍でますます家族との絆が重要な事柄に挙げられると思います。
- 子どもたちの学校、家庭での生活がアンケート結果だけでは見えない部分もあると思いますが、やはり基本的な生活習慣は家庭の役割が大変重要だと思います。地域もPTAと意見交換をして、見えない部分をコミュニケーションの中から見し出したいと思います。
- 日も長くなり、天気の良い日には公園で元気いっぱい子どもが遊んでいる姿を見るのもとても微笑ましいのですが、真っ暗になるまで遊んでいるのは、少し気になります。
- 健康や新しい生活様式について、子どもたちには正しい知識が身に付いているように思われますが、一方でコロナ禍で家庭生活全体を通して疎かになっている部分もあるのではないか。「災害時の行動は、平時の行動の延長にある。」との言葉通り、健やかな体は日常の暮らしの中から生まれていくと思います。
- 挨拶について改善されており、「おはよう なかよし やりぬく子」が実践されていることをうれしく思います。